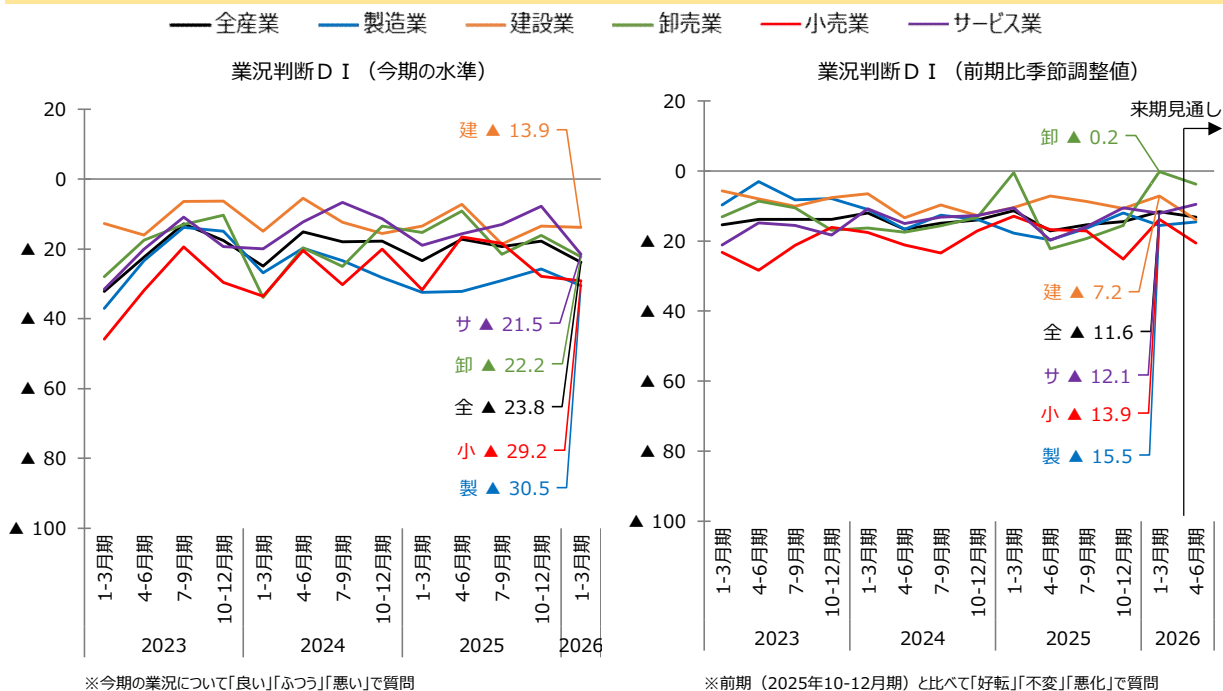


# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 北海道



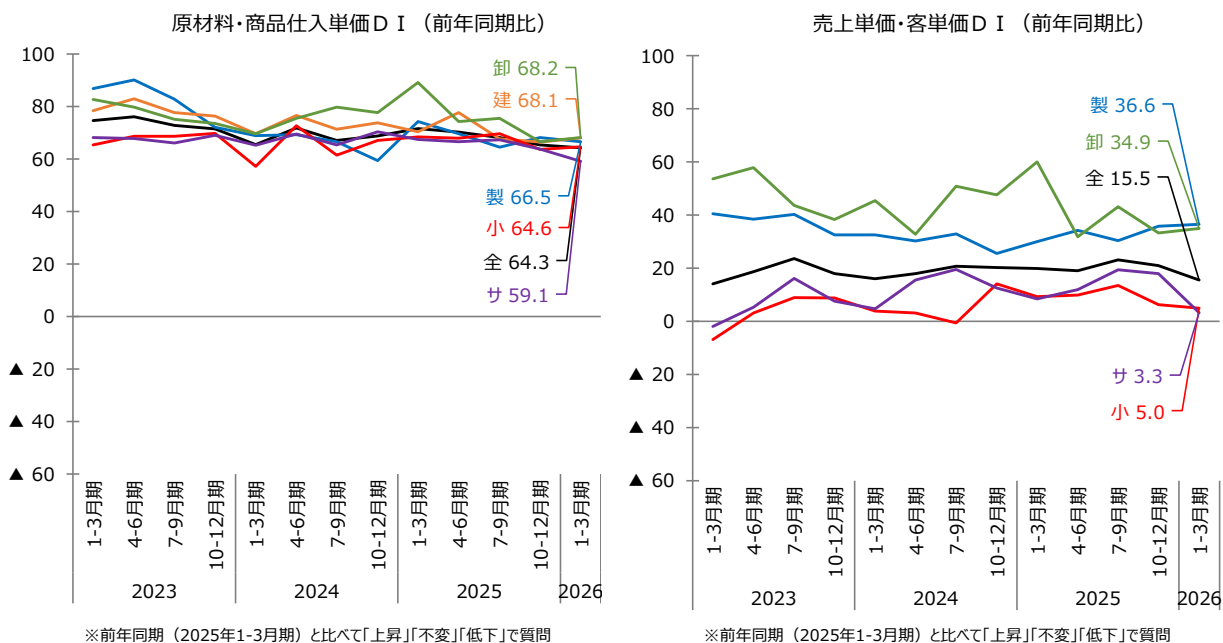
## 1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より6.1ポイント減の▲23.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の64.3と4期連続して低下した。産業別にみると、建設業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.4ポイント減の15.5と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、北海道：706企業

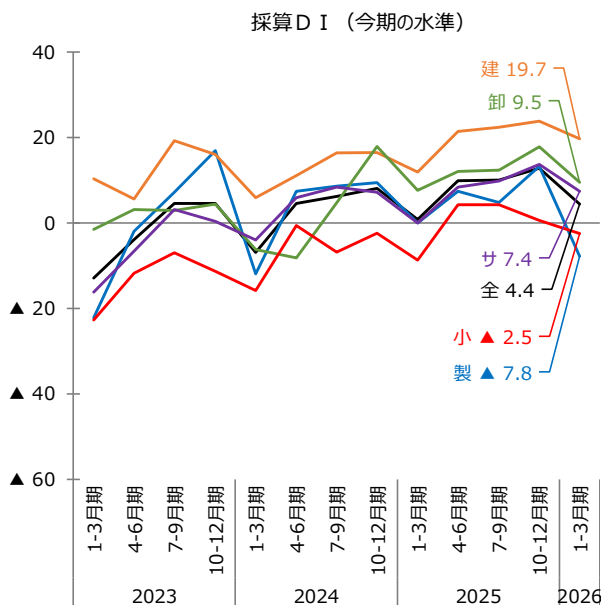
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 北海道



## 3. 採算

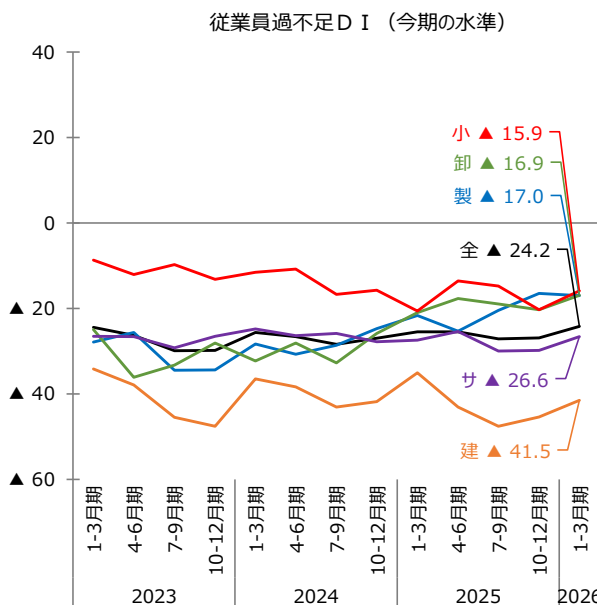
採算DIは、全産業で前期より8.4ポイント減の4.4と4期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で2.7ポイント増の▲24.2で2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、卸売業、サービス業で上昇し、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 北海道の中小企業の声

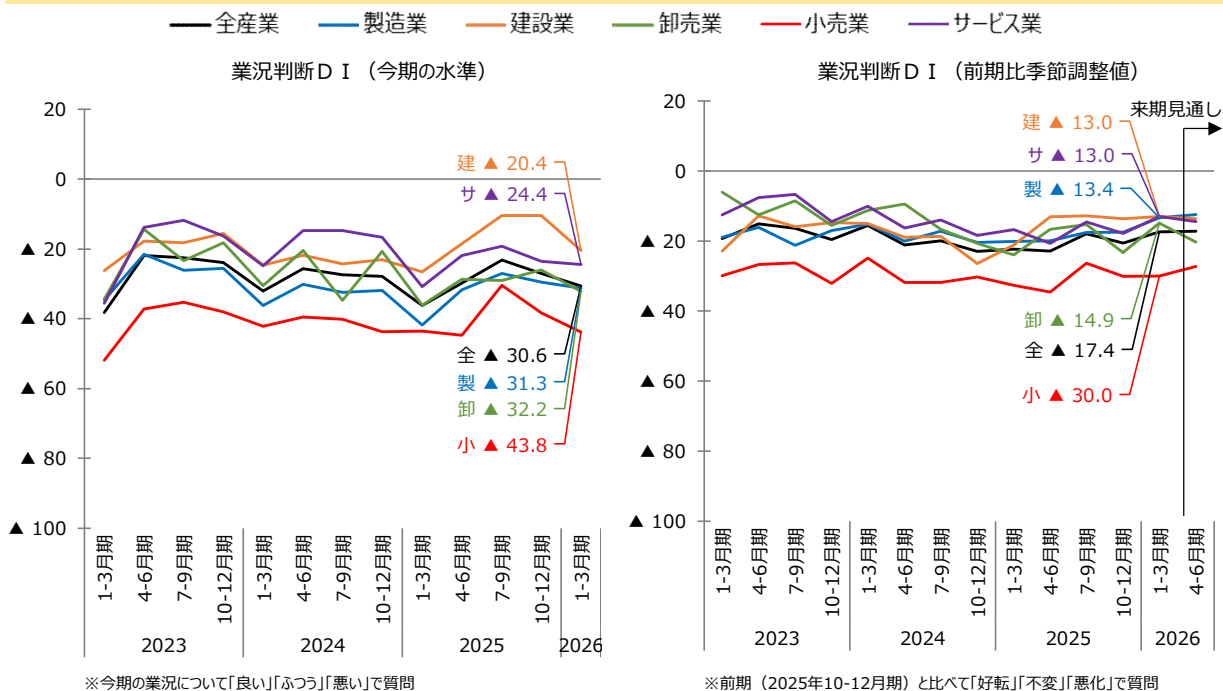
業況判断の背景		業種
現 状	羅臼港の鮮魚の水揚げが極端に少なくなり、鮮魚処理の売上が激減している。春期の漁が不安である。	製造業 その他の水産 食品製造業
	仕事はあるが人員不足である。外注に出すことが増えてきている。粗利では減収している。	建設業 電気通信工事業 (有線テレビジョン 放送設備設置工 事業を除く)
	天候の影響で工場の収益が悪化、雪の影響で貨物が遅延、借入金利上昇で人件費の増加等、中小企業にとって、何も良いことはありません。収益悪化により、派遣スタッフなどの人員整理をした。収益の厳しさは続くと思われる。	卸売業 その他の食料・ 飲料卸売業
	例年2月は需要停滞期で、インパウンドの客は時折り来店するものの、地元の顧客は物価高から、食料品以外の物は買い控えている。あまりにも来店客が少ないので、時短営業で経費を節減している。	小売業 かばん・袋物小 売業
	仕入価格は上昇しているが、販売価格に転嫁できない。取引先（病院等）が経営難に陥っており、そのしわ寄せで受注が減少している。	サービス業 情報処理サー ビス業
見 通 し	人員の確保が現在はできており、営業、催事出展、イベント出展等が活発に行えるため大幅な売上増が見込める。	製造業 乳製品製造業 (処理牛乳、 乳飲料を除く)
	建設資材の高騰により、新築工事が減少傾向にあり、リフォーム工事に転換しているように思う。令和8年度は、まだ不透明で予想できない。	建設業 左官工事業
	人口減少や気候変動など、経営の先行きが不透明である。	卸売業 その他の産業 機械器具卸売 業
	3月から米の仕入値が下がる動きの中での物価高対策のお米券の配布があり、当然のことながら消費拡大に期待していたが、地元では近隣市町村と比較し額面が低いいため思った以上の効果を得られないと予想している。	小売業 食品スーパー マーケット
	地域通貨の導入により利用客が増加し、売上は好調に推移している。今後、利用減や制度打ち切り等が生じた場合には売上が急減する可能性があり、制度依存による反動リスクが懸念される。	サービス業 バー、キャバ レー、ナイトク ラブ

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 東北

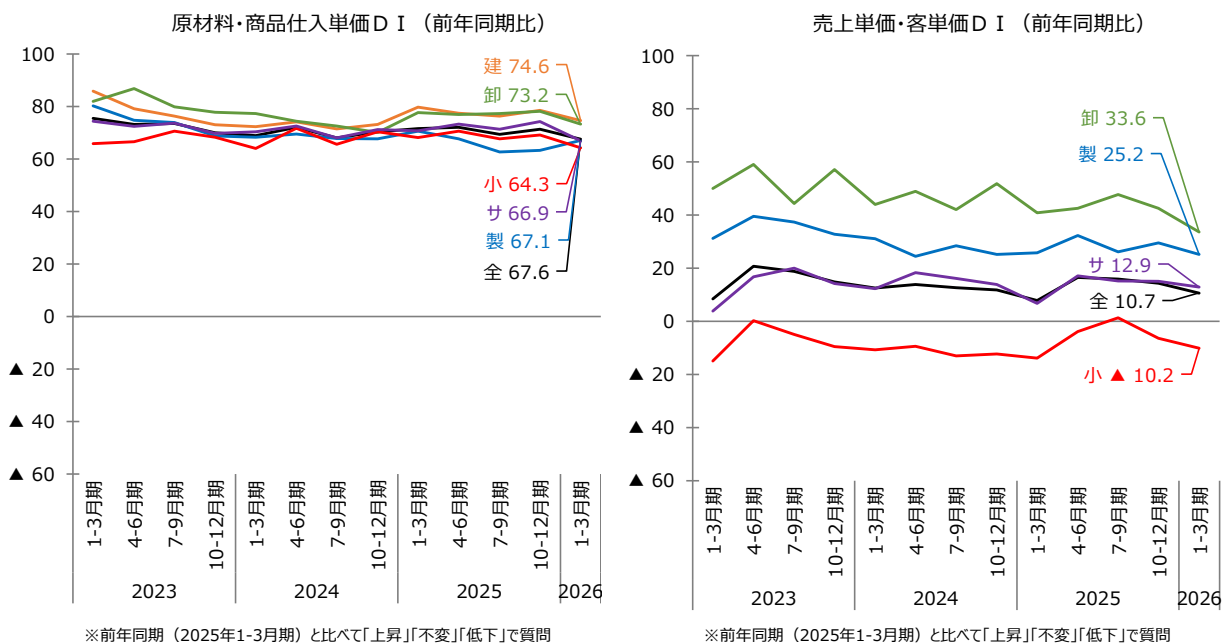
## 1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より3.6ポイント減の▲30.6と2期連続して低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.7ポイント減の67.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の10.7と3期連続して低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、東北：1,823企業

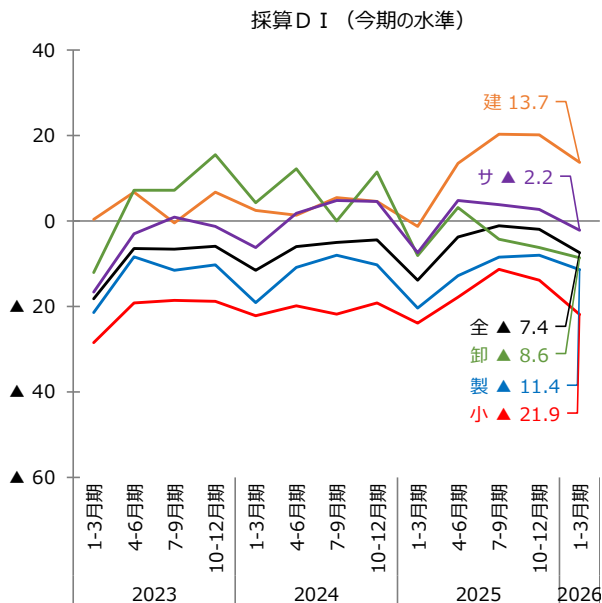
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 東北



## 3. 採算

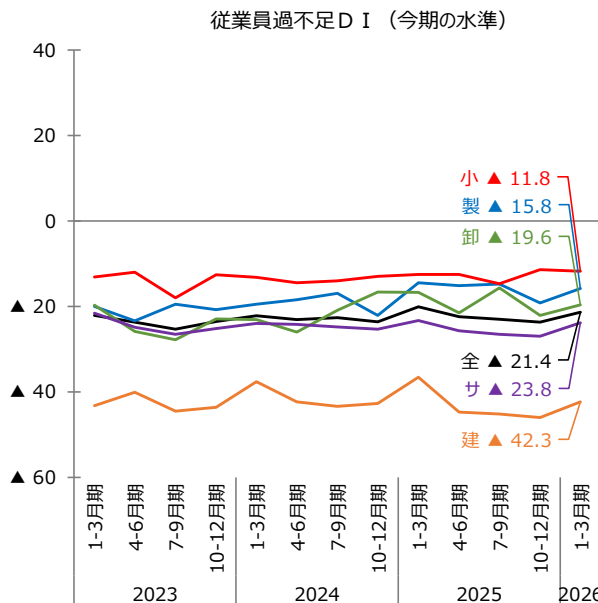
採算DIは、全産業で前期より5.4ポイント減の▲7.4と2期連続して低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント増の▲21.4と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業、卸売業で上昇し、小売業で低下し



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	加工単価に対しての材料費・人件費の上昇により、利益が減少し経営が困難になりつつある。	製造業 他に分類されない金属製品 製造業
	材料価格の上昇には、落ち着きは見られるが高止まりの状態。技術者、熟練技術者の確保は困難である。また、技術者の育成、採用はそれ以上に困難である。	建設業 一般土木建築 工事業
	仕入単価の上昇が継続しており、販売価格は大手企業との価格競合の観点から十分な利幅確保には至らず、現状は薄利の状態である。多売を目指すも、買手も慎重姿勢のため利益確保が困難な状態である。	卸売業 他に分類されないその他の卸 売業
	今年は大雪で、遠方からの客数が減ったことに伴い仕事量も減り、悪い流れであった。	小売業 酒小売業
	インバウンド宿泊者が増えている。特にタイ。国内旅行者も増えている。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	需要低迷の中、原材料の値上げが4月より実施予定となり、価格上昇につながる。更なる経費節減から需要減が見込まれ、悪循環になると予想する。	製造業 オフセット印刷 業（紙に対するもの）
	官公需要の落ち込みが見込まれ、熟練労働者が確保できない。物価高・人件費高で景況悪化が不安である。	建設業 一般土木建築 工事業
	大手版元の事業整理により雑誌の休刊などが始まっている。2026年3月で出荷停止になる書籍や在庫整理に対応する必要がある。新入学用品も学校の方針変更で大幅に受注額が減少する見込み。	卸売業 その他の各種 商品卸売業
	燃料に関しては大雪による寒さの影響で使用量が増加し売上もプラスになった。今後、人口減少やイラン情勢が悪化する等の要因により、仕入価格が上昇する恐れがあるので、経費等の見直しを行い収益を確保する必要がある。	小売業 電気事務機械 器具小売業 (中古品を除く)
	昨秋の熊出没、今冬の積雪状況などが続き、来街者、来店者数が激減。また、今期は、クルーズ船の来船数が激減し、売上も減少予想。営業時間の短縮等の店舗運営の曲がり角である。	サービス業 デザイン業

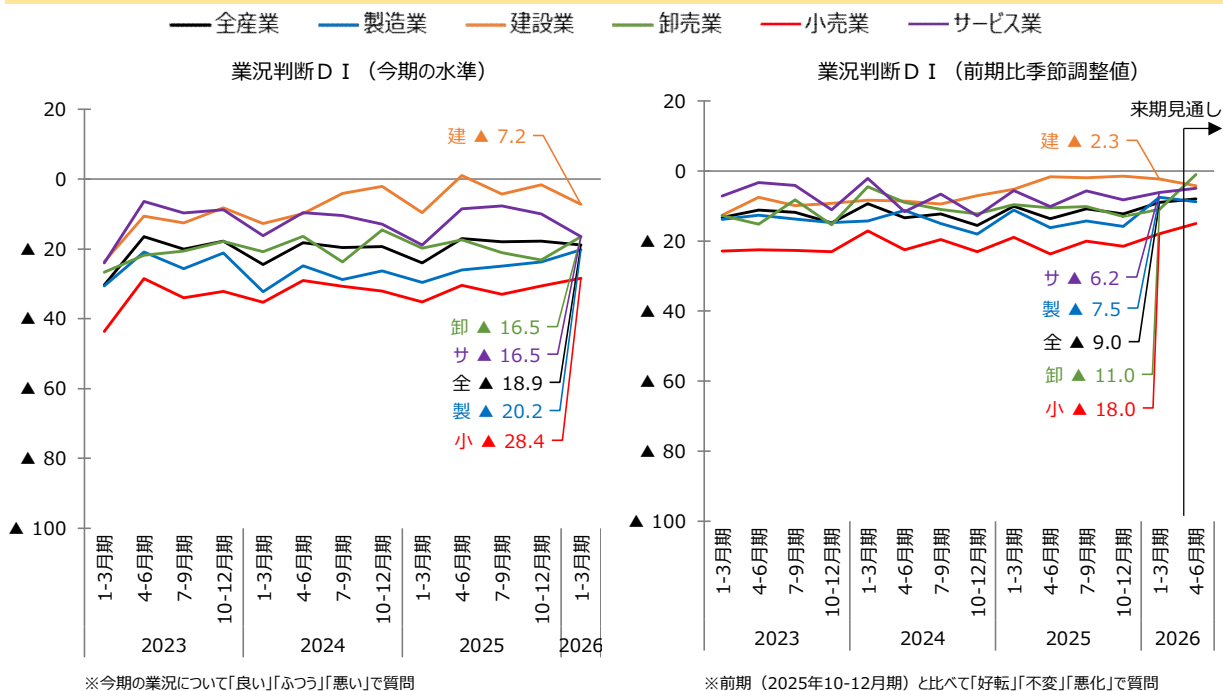
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 関東



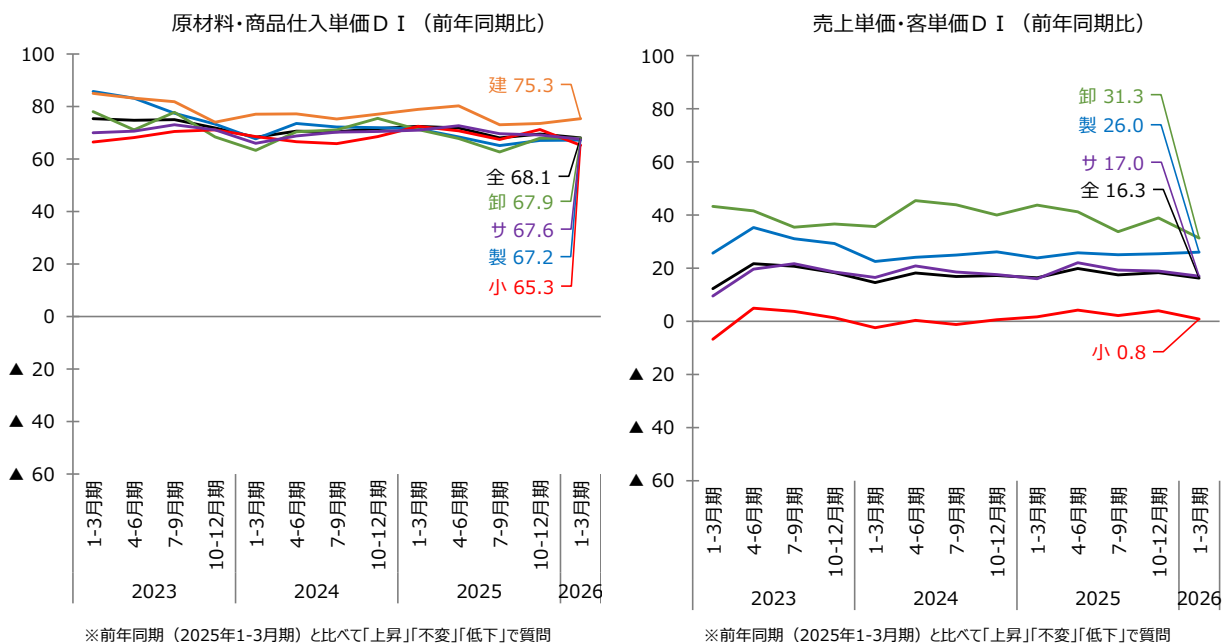
## 1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より1.2ポイント減の▲18.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業で上昇し、サービス業、建設業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の68.1で2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、卸売業で横ばい、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の16.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、関東：4,863企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 関東

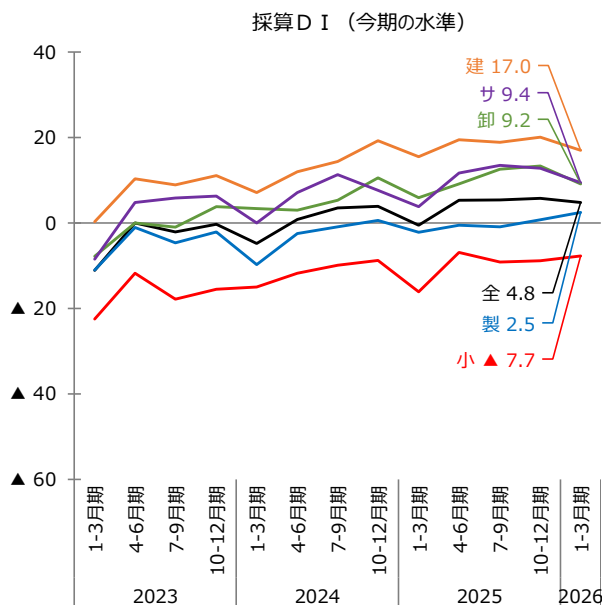


## 3. 採算

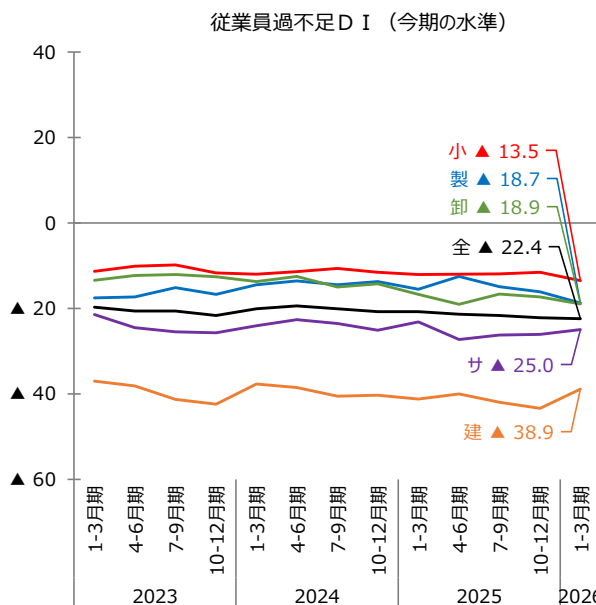
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の4.8と4期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、建設業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲22.4と7期連続して低下となった。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、製造業、小売業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	新規取引先が増えたことや、1～2年間に渡り試作を繰り返した製品が量産につながったこと、価格転嫁が少しずつ進んでいることなどが複合的に良い影響をもたらした。	製造業 金属用金型・同部分品・附属品製造業
	材料価格の高騰及び労務単価の上昇分を受注金額に反映出来ていない。その為、利益の減少及び材料納期の長期化による作業工程の不透明化等により、業況が改善しない苦しさがある。	建設業 電気配線工事業
	材料費、工賃（外注費含む）の上昇から工事単価も上昇しており、工事の延期、中止またタイル工事のみ縮小等の影響が出ており業況は厳しい。また、借入金利も上昇しており収益を余計に圧迫させている。	卸売業 タイル工事業
	米の販売では、仕入価格が値下がり傾向である。その為、今後販売価格も少しの値下げを予定。値下げ傾向では同業他社との価格競争が激化しやすく、今後の懸念点である。灯油販売は、暖冬な気象が影響し例年よりも低調である。	小売業 米穀類小売業
	好調だったインバウンドが今期は不調。中国人の訪日自粛も少なからず影響あり。他国の外客や国内旅客でも埋めきれなかった。但し、2月中旬以降はインバウンド復活の兆し有り。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	官、民工事の停滞、工事物件の減少により工場の稼働ができなくなった日が多かった。見積り件数も少なく、今後の見通しも悪い。	製造業 鉄骨製造業
	ハウスメーカーから受注しているが、戸建て住宅の新築受注が減り、増加の見通しが立たない。住宅リフォームの受注競争がさらに激化。熟練技術者（大工・左官・板金等）の高齢化と人材確保が課題。受注してもこなせない時がある。	建設業 一般土木建築工事業
	建設需要は引合いは増えているものの工期延長も増加、当社の取り扱う資材の納期もずれ込んでおり、商材の回転は今一つ。足元は明るい先行きは不透明。	卸売業 その他の建築材料卸売業
	暫定税率の廃止と、暖冬による燃料売上の伸び悩み、設備投資等が重なり今期は厳しい。また、中東情勢の悪化、先行きの不透明さ等により来期以降も先が見えない状況である。	小売業 ガソリンスタンド
	業界的にレッドオーシャンである。価格競争に陥るケースが多く、差別化が図りにくい。A Iの台頭により、発注数の減少が想定される。	サービス業 アプリケーション・サービス・コンテンツ・プロバイダ

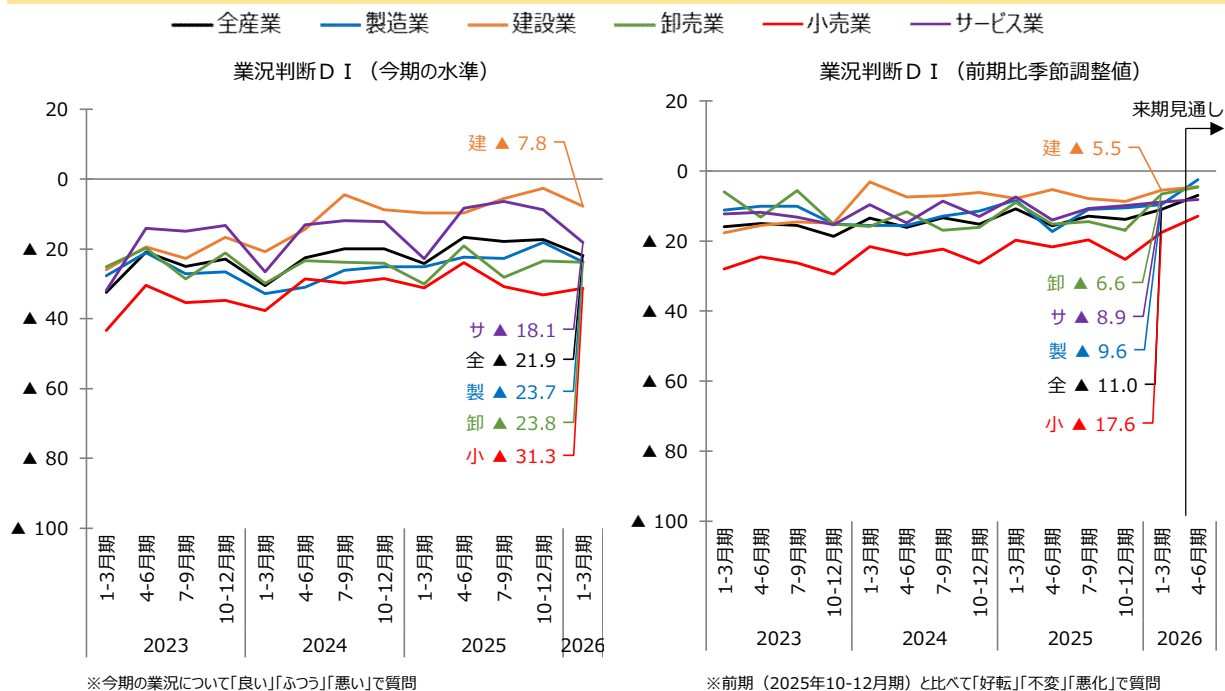
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中部



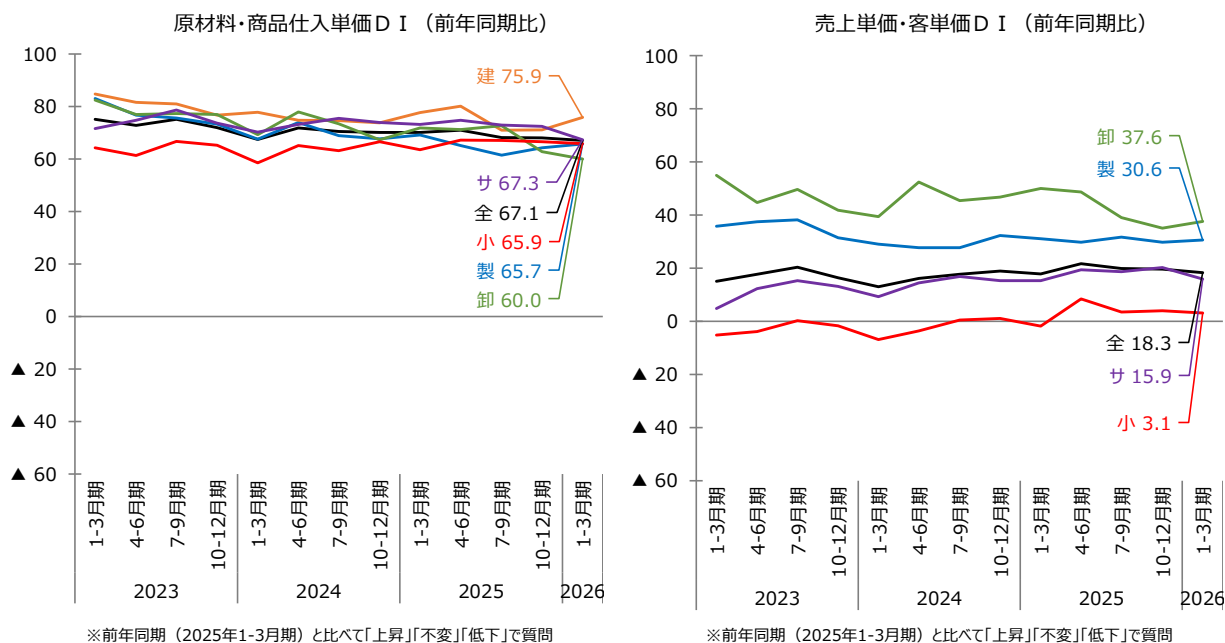
## 1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より4.6ポイント減の▲21.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、製造業、建設業、卸売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の67.1と3期連続して低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の18.3と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、中部：2,289企業

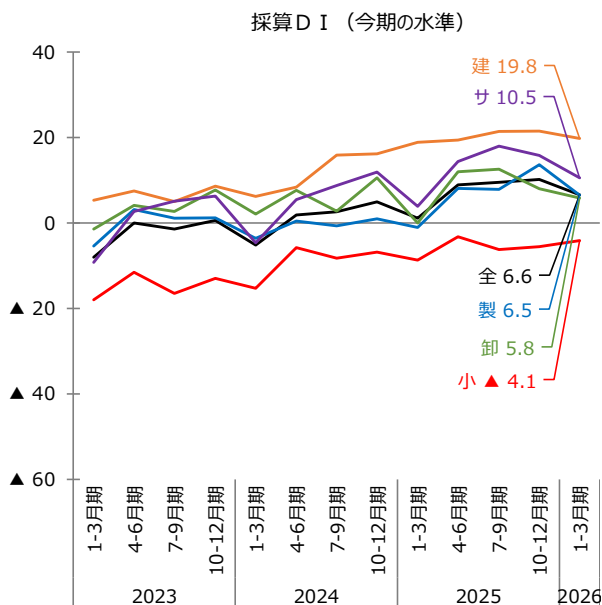
※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中部



## 3. 採算

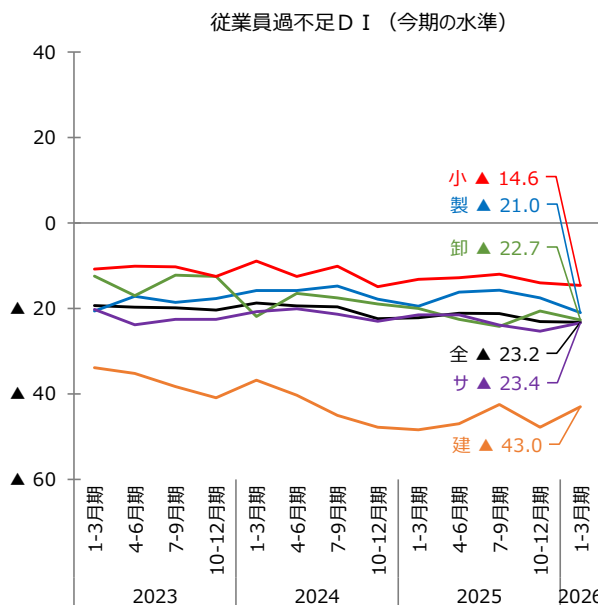
採算DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の6.6と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲23.2と3期連続して低下した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	利益率確保し、採算も合っている。ロットが少ないがために余分な製品も同時生産するため製品在庫が増えている。従来の製品は需要が少なく、大幅に生産高は下がっている。補修用タイル重視の方向にかじを取る。	製造業 陶磁器製タイル製造業
	能登半島地震に関係した工場・店舗等の復旧・改修工事はほぼ落ち着き始めている。また、災害復興住宅から退去するための新築住宅建設もまだまだこれからではあるが、一時期の煩雑な状況ではない。	建設業 板金工事業
	単価の安いものに流れ、高付加価値の商品の動きが悪くなっている。低価格、多様性を謳った微妙な化粧品が急激に増えたことで、嗜好品にかかる金額が下がってきているように感じる。	卸売業 化粧品卸売業
	例年、豪雪の影響により来店客数が大きく変動するため、天候状況を見据えながら仕入量を柔軟に調整している。コーヒー豆の仕入価格は継続的に上昇しているものの、適切に価格転嫁を行っており、影響はない。	小売業 食料品スーパーマーケット
	大型店舗の参入や価格帯の低い店舗が参入してきており、地域の高齢化もあって、顧客が減少している。	サービス業 美容業
見通し	受注、引合いともに弱く、先行きは、業況悪化が懸念される。中国品との競合、先行き不透明感から人件費他コストアップ分の価格転嫁が出来ていない。	製造業 その他の織物業
	人材不足のため、経営・営業・現場での管理者（指導者）が不足で管理指導ができないため、先が見通せず、心配である。	建設業 電気配線工事業
	客先の開拓は進んでいる。海外向け引合いの増加。国内需要は低調であるが、徐々に好転すると考える。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	近隣のガソリンスタンドが新装開店するので、出荷数量が落ち込む見込み。	小売業 ガソリンスタンド
	今後、光熱費の上昇に加え、材料費等仕入単価もさらに上昇すると思われ先が予測できない不安がある。	サービス業 旅館、ホテル

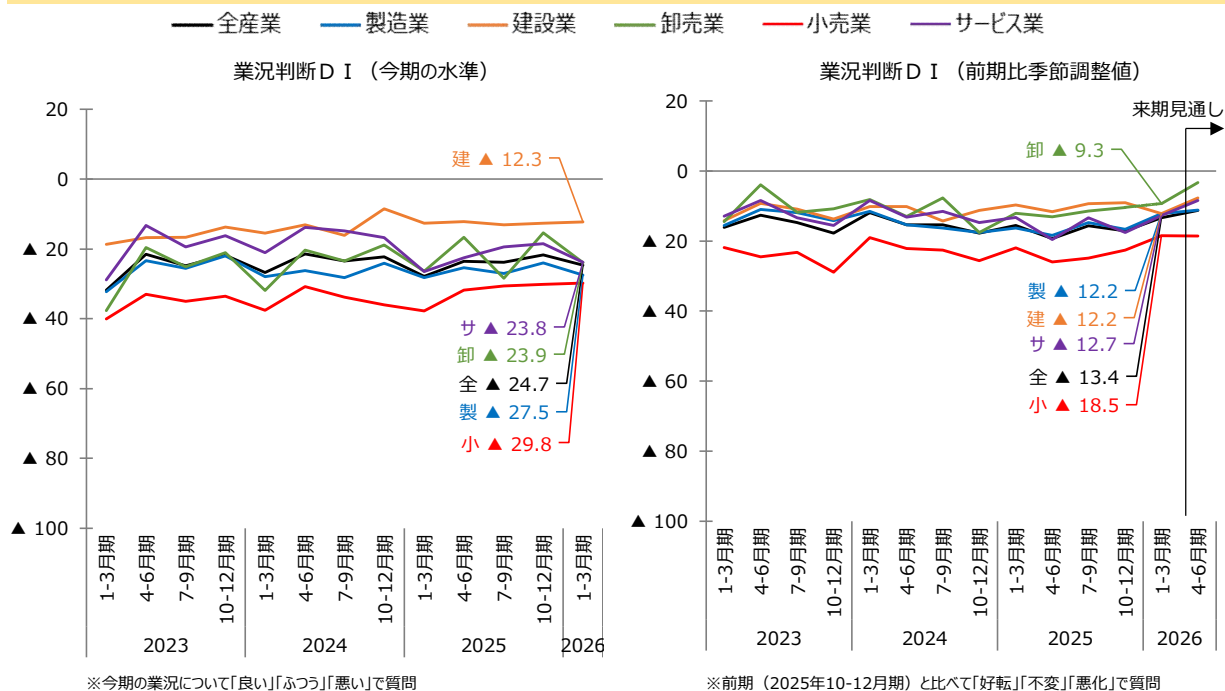
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 近畿



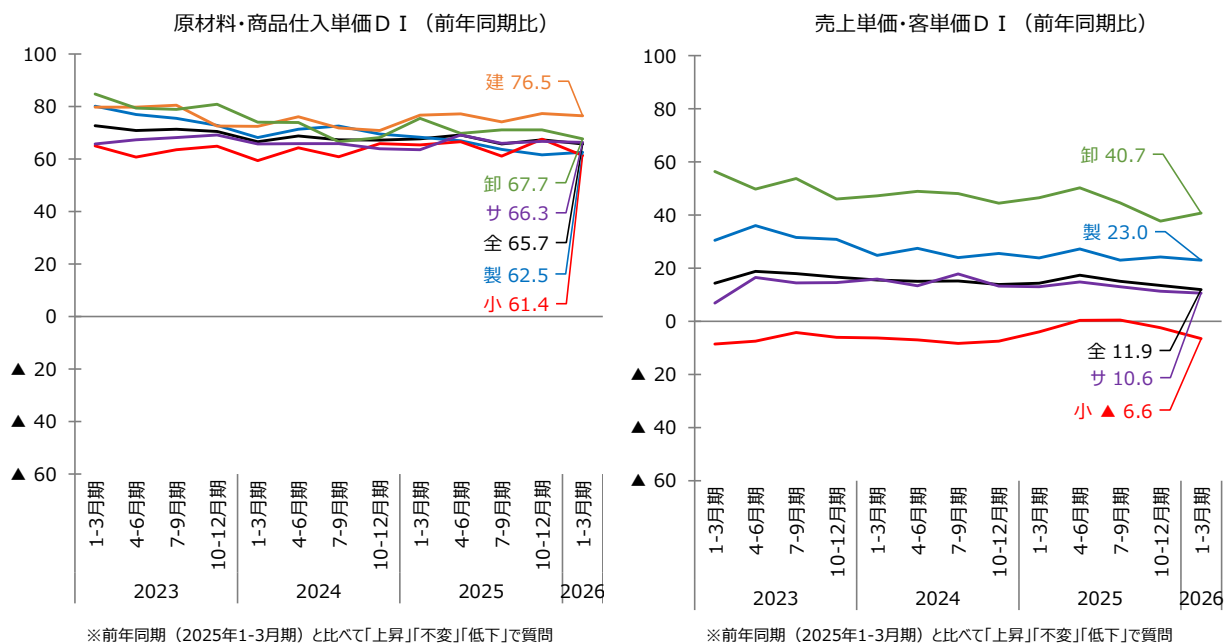
## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より3.0ポイント減の▲24.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の65.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の11.9と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業  
 今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、近畿：2,519企業

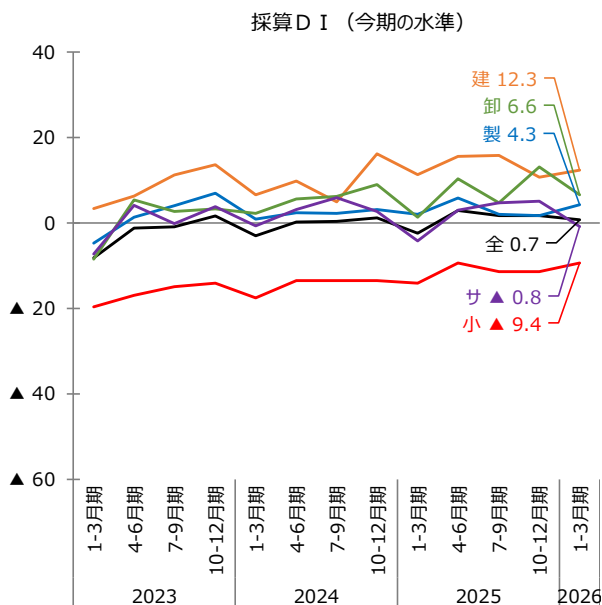
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 近畿



## 3. 採算

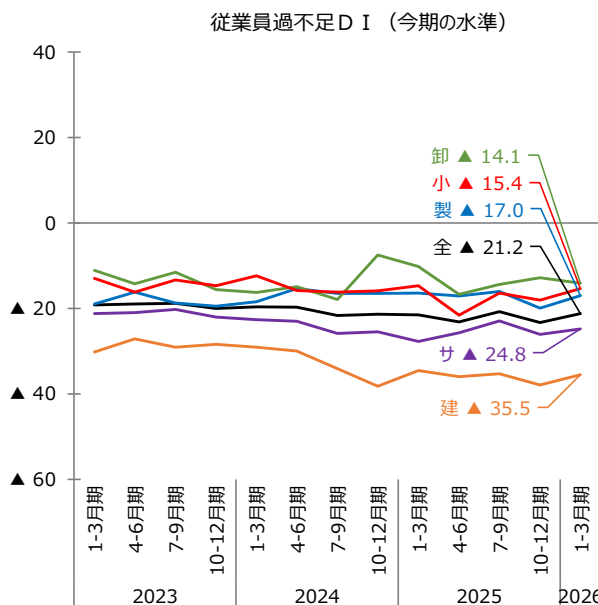
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の0.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.1ポイント増の▲21.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	人件費の増加に加え、原材料費の値上げが続き、利益確保が厳しい状況である。	製造業 医薬品製剤製造業
	中小企業として2025年12月に建設業法が変わり、適正価格があがってしまう。リフォーム・新築でも法的決め事が多くなり対応が大変なうえ、経費も増える一方。会社の一員・労働者としての人材確保教育が難しい。	建設業 木造建築工事業
	新規事業として立ち上げた食品関連が軌道には乗りつつあるが、初期の顧客の通販紙面掲載が続き、利益率が減少気味。新しく獲得した売上が相殺されている現状に少し懸念される点がある。	卸売業 野菜卸売業
	コメパニックが終わり、余り気味の米に販売価格がだんだん低下していき、当方も見習って価格をさげたりしておりますが、追いつきません。	小売業 米穀類小売業
	今期は大雪の影響により来店客数が減少したため、売上・利益減となった。仕入原価の上昇分の価格転嫁が追い付いていない。	サービス業 酒場、ピヤホール
見通し	2025年秋ごろから全般に急速に業況が悪化している。半導体関連の受注も落ち込んでいるが、3～4月頃には回復するだろうとの見立てもあり、期待している。	製造業 発泡・強化プラスチック製品加工業
	仕入れ価格等の高騰により、需要の低下があり、今後の見通しが悪い。	建設業 木造建築工事業
	万博やインバウンド需要が一服し、踊り場の様相。設備投資は堅調さが続くと思われ、引合いはそれなりにあるが力強さに欠ける。人件費やその他の経費の増加、借入金利上昇等のコスト増が懸念される。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	1～3月は天候の影響で売上が昨年の50%程度の予想。客数の減少も天候によるものと思われる。客単価は減少していないので3月後半から持ち直すものと思われる。	小売業 食品スーパーマーケット
	設備投資するにも先行き不安がある。（従業員の確保も不安である。）	サービス業 自動車一般整備業

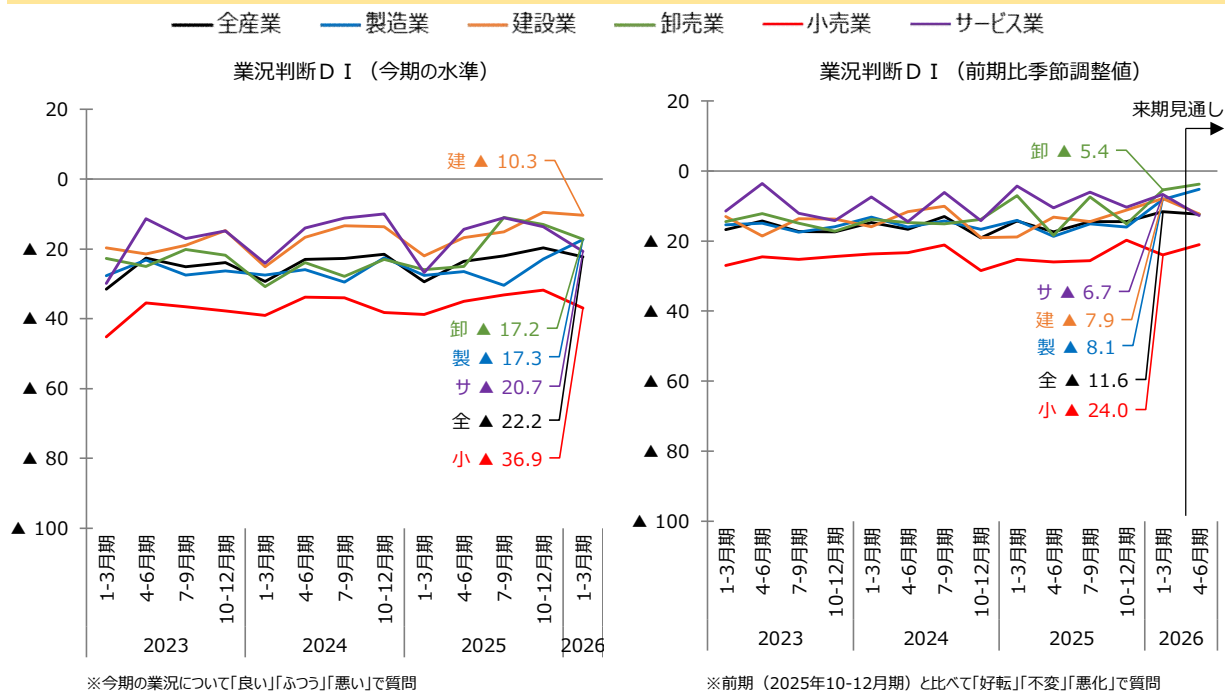
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中国



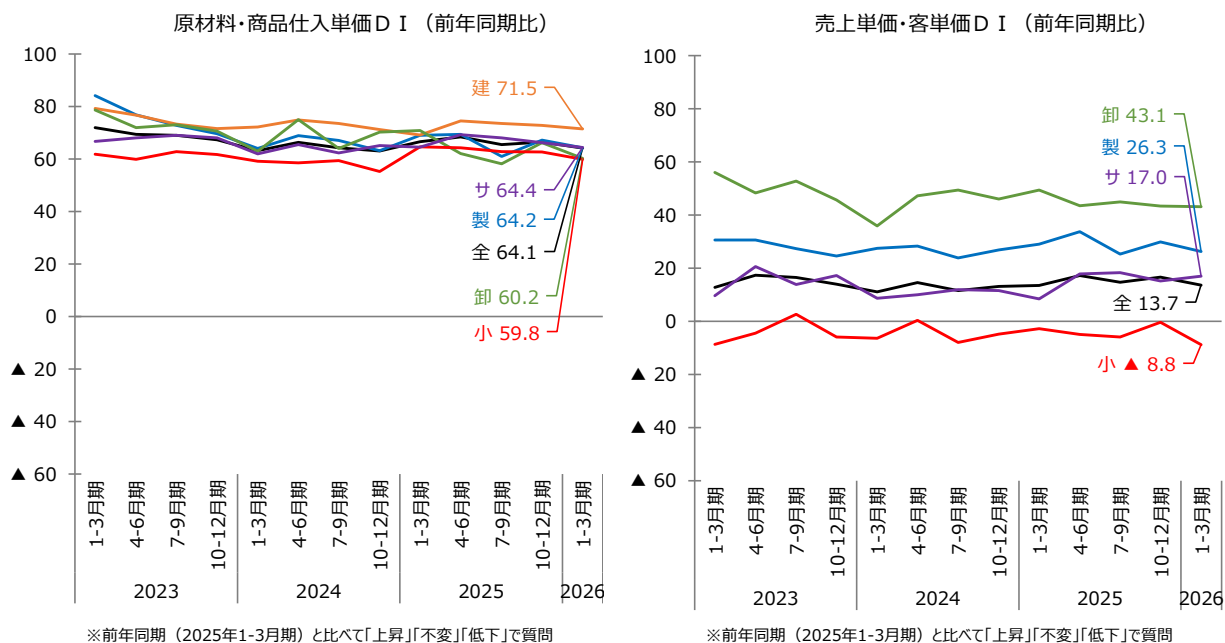
## 1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より2.5ポイント減の▲22.2と4期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、小売業、卸売業、建設業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の64.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.0ポイント減の13.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、製造業、卸売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、中国：1,636企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 中国

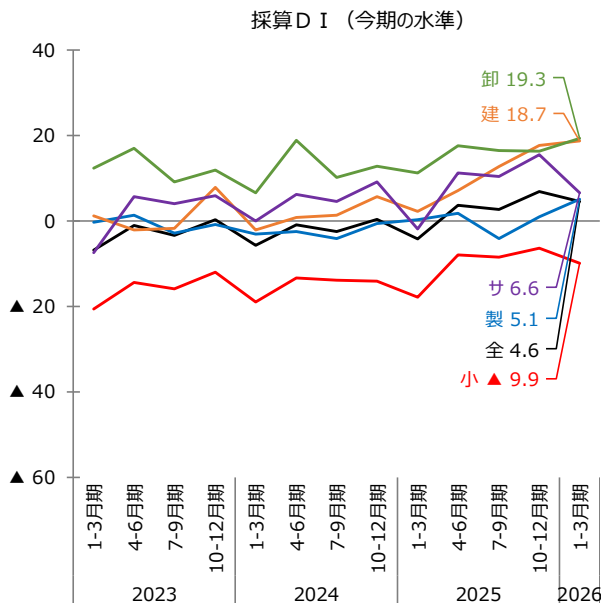


## 3. 採算

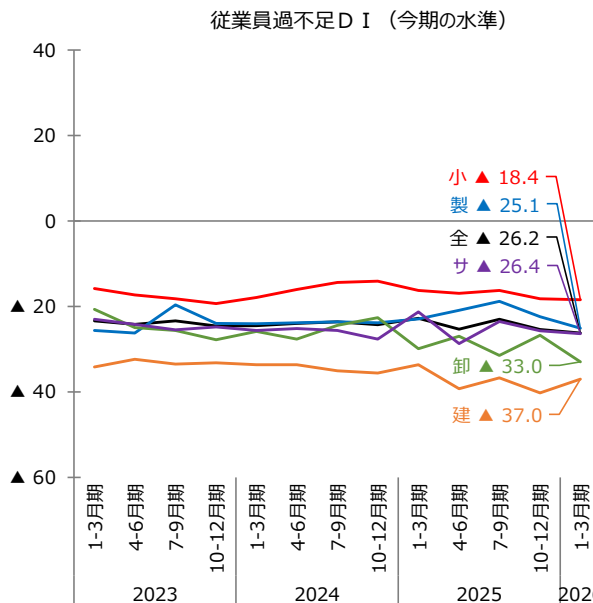
採算DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の4.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の▲26.2と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	当該地域の人口と需要の落ち込みが業況にまともに反映してしまっている。中国地方全体が人口減少と経済状況の悪化になっている中で、いかに地域外に活動範囲を広げるかが課題となる。	製造業 オフセット印刷業（紙に対するもの）
	1～2月は雪が長く続き、仕事を受けていても着工できない日が多かった。昨年比で受注件数も減少しており、需要の停滞を感じている。	建設業 木造建築工事業
	売上・受注は増加しており、どちらも目標達成の見込みだが、利益が足りず苦戦している。また、人員確保は好調だが、デスクや駐車場等の物理的スペースが足りなくなっている。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	1月以降の降雪・地震の影響で、観光需要が大きく落ち込み売上高の減少に直結した。また、10月以降の最低賃金上昇に対して人員のコントロールが追いつかず、人件費をはじめ費用増となり収支としては苦戦している。	小売業 その他の各種商品小売業
	1月後半から客数が増えた。天候の影響も有。長年ご来店の方も高齢者施設などに入れ足を運ばれる方が少なくなった。遠方のお客様も口コミでご来店いただいているが客足のある時に次のアプローチを考えサービスを行うことが大切である。	サービス業 美容業
見直し	支出を事前によく検討し、減少させたことで、短期的なC/Fは改善した。しかし、長期で見ると設備更新のための資金に不安あり。	製造業 半導体素子製造業（光電変換素子を除く）
	立体駐車場メーカーが中国地方から撤退したことにより、直接契約となったため請負単価が上昇。それに伴い、部品販売の購入販売も行うため利益も見込んでいる。取引先が増え積極的な営業活動を行いたい。	建設業 昇降設備工事業
	今期に入って大口の設備受注が減り、売上高は増加しているが、後半の見直しは楽観できるものではない。	卸売業 金属加工機械卸売業
	人件費・物価の高騰に売上が追いついて行けない状態で、先行きが不安である。	小売業 その他の各種商品小売業
	ドライバーの高齢化、人手不足は待たなし。仕事はあっても稼働できないという状況になっていくと思う。	サービス業 旅行業（旅行業者代理業を除く）

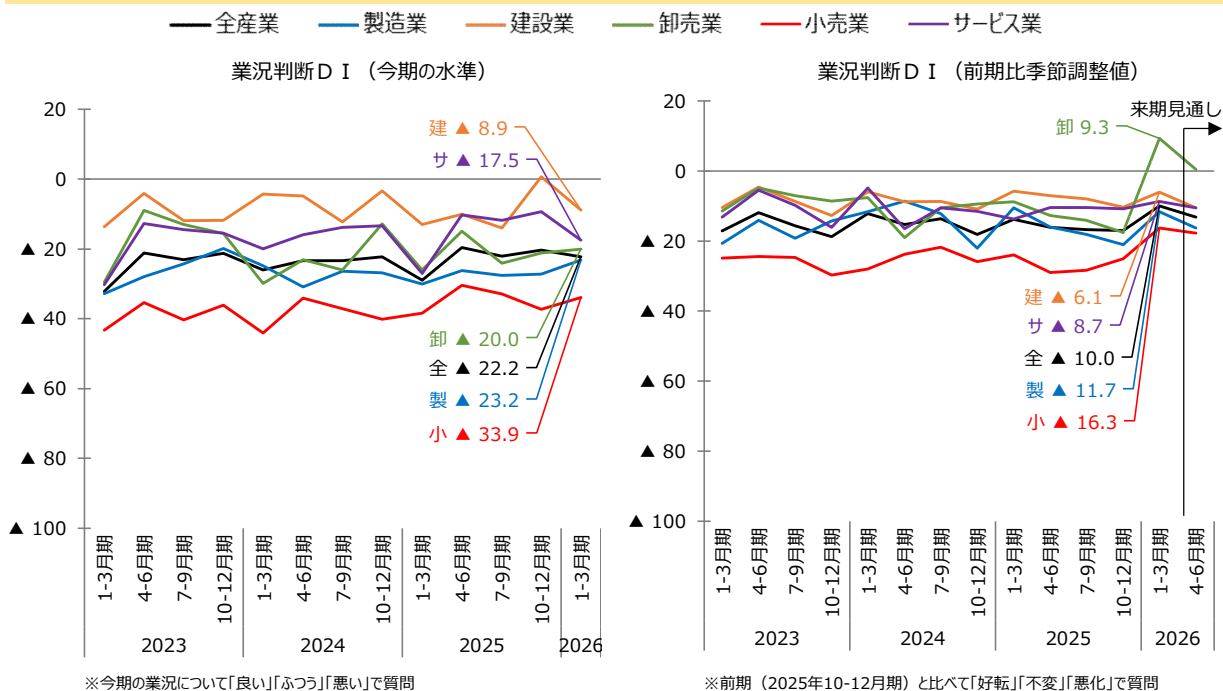
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 四国



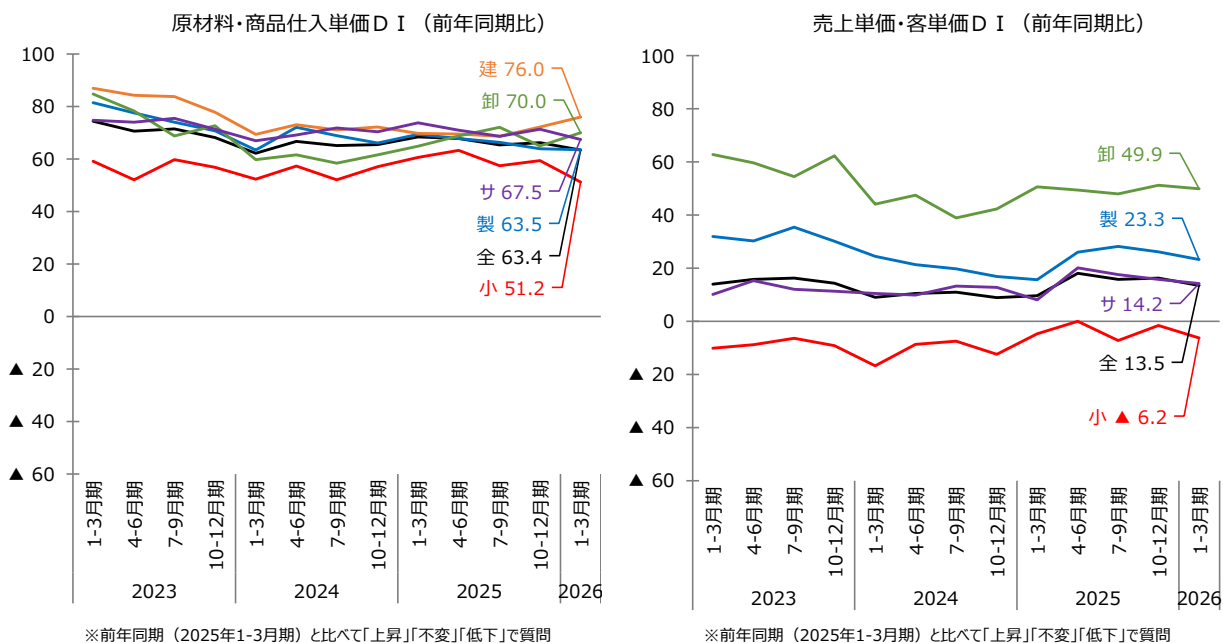
## 1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より1.9ポイント減の▲22.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業、卸売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の63.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の13.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業  
 今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、四国：1,282企業

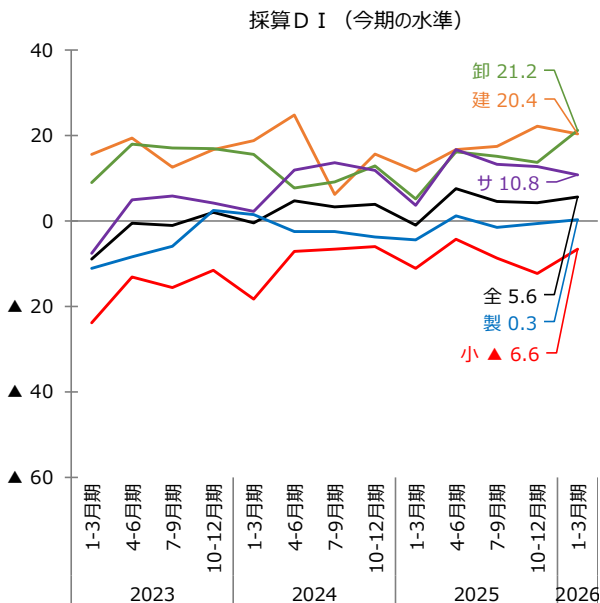
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 四国



## 3. 採算

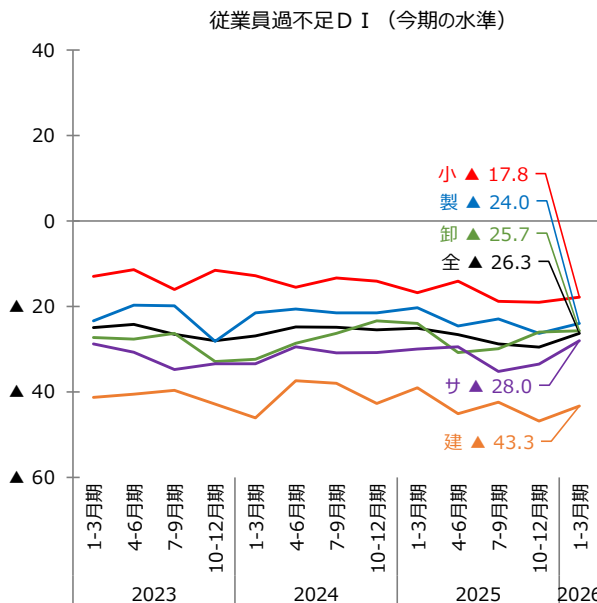
採算DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の5.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.2ポイント増の▲26.3と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	円安の長期化や2025年度からの省エネ基準義務化に伴う建材需要の変化が価格を下支えている結果、依然木材等の資材価格が高いままである。現状問題はないが、今後どうなるかが予想できない状態が続いている。	製造業 畳製造業
	大型工事や長期工事が混在して受注しているので、常に業況を把握しながら、採算（原価）を管理して進捗する重要性を持つよう管理者に促している。	建設業 一般土木建築 工事業
	全体的に値上げをしたことで、売上を伸ばしている状態になっているが、値上げの理由の大きな要因である人件費等の経費の増加が、想定以上であると感じている。	卸売業 その他の食料・ 飲料卸売業
	安いものから、高くても付加価値が得られるもの（体験型）が求められてきている。独自性、強みを伸ばし、ここでき得ないものを提供していこうと思っています。	小売業 酒小売業
	動画編集の利用客は多く、定期的に需要があるが、低単価で収益は低い。HP制作はレポート需要に反して、新規獲得が困難な状況である。	サービス業 受託開発ソフト ウェア業
見通し	当社主力の自動車関連部品の引合いは、徐々に戻ってきている印象である。しかしながら、原材料や人件費アップの価格転嫁は十分ではなく、今後の課題と認識している。	製造業 真空装置・真空 機器製造業
	市場が活発になりかけたところで、今年に入ってから銅相場をはじめとする大幅な値上がりで、混乱すると予想する。	建設業 一般電気工事業
	業界他社の廃業などが原因で、継続している自社に注文が増えてきている。技術的には長い時間をかけて蓄積してきたので、この特色を生かし、外国への販売も視野に入れている。	卸売業 その他の農畜 産物・水産物 卸売業
	中学校、高校の入学シーズンとなっており、学生服が売れる時期である。しかし、近年はネット販売での購入が増えており、当店は厳しい状況である。今期は、1年で最も売れる時期であるが、来期は売上が落ち込むと予想する。	小売業 呉服・服地小 売業
リピータ客が多く業況は、概ね維持または好転することを見込んでいる。過ごしやすい季節を迎えるこれから利用客が増えることを期待する。	サービス業 旅館、ホテル	

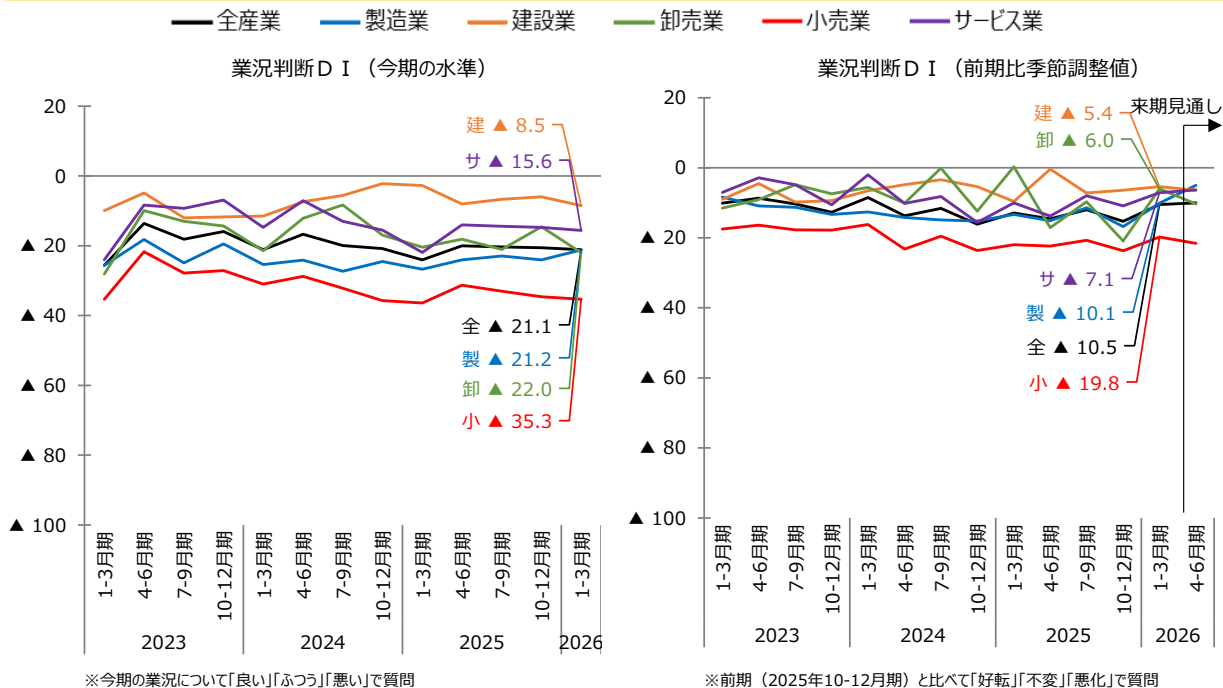
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 九州・沖縄



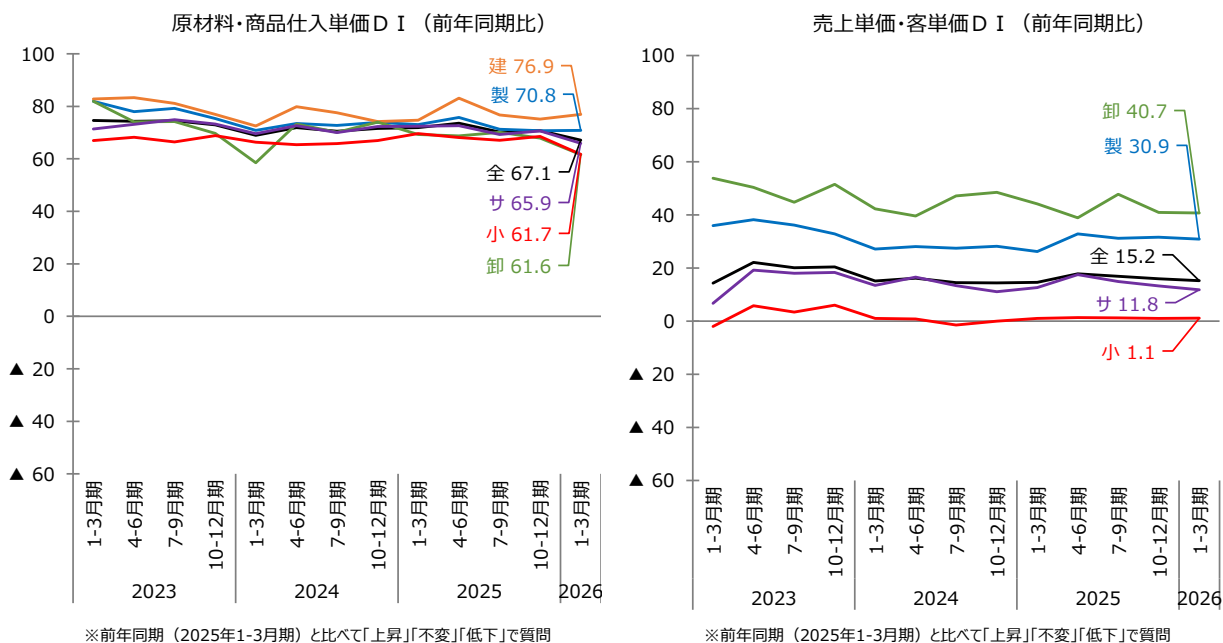
## 1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より0.5ポイント減の▲21.1と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、建設業、サービス業、小売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の67.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の15.2と3期連続して低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、九州・沖縄：2,777企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 九州・沖縄

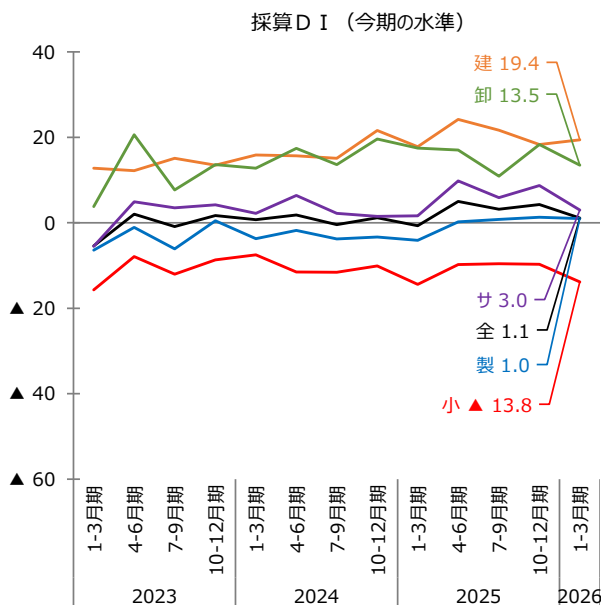


## 3. 採算

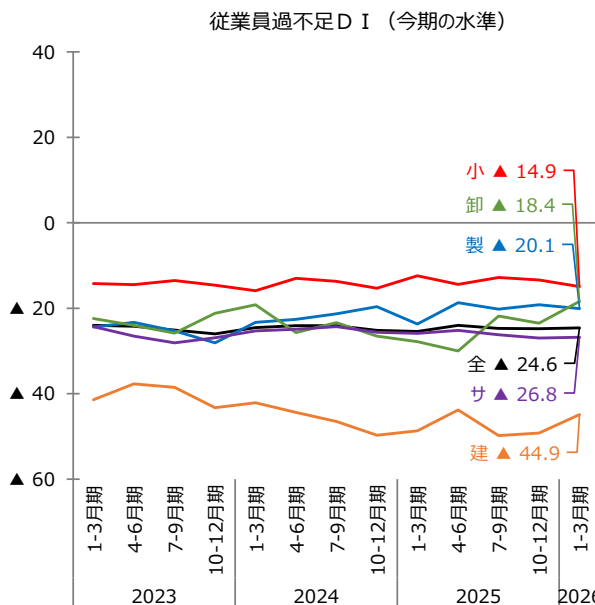
採算DIは、全産業で前期より3.2ポイント減の1.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業、製造業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲24.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	船価高騰する中船舶需要は、一定水準を維持しており2～3年程度の受注残はある。新規採用による従業員確保が困難となっており、既存従業員の高齢化で生産性低下、事業の継続性すら危ぶまれる。	製造業 船舶製造・修理業
	建設業自体、案件は増えているが、利益はトントン。特に当地は公共が極端に少ないため民間のみでは利益確保は困難である。さらにコロナ融資の返済により、長期事業資金の調達に困難なため資金繰りが厳しい状況。	建設業 (木造建築工事業を除く)
	前年度が夏場の高温障害で冬野菜の出荷が相当減少した。今年度は比較的早く寒くなり冬野菜の出荷が順調にあり、資材の動きもやや上向き。	卸売業 紙製品卸売業
	抹茶ブームにより仕入価格が急騰、生産者と海外のバイヤーが直でつながり、既存の商流が激変することに危機を感じている。	小売業 茶類小売業
	スーパーや道の駅の売上が少しづつではあるが伸びている。また、別の事業の売上があるので、そちらでカバーできればと思っている。	サービス業 他に分類されない飲食店
見通し	前期より売上数量は増加したが、工事案件は多くないため、来期の需要も今期並みと見込んでいる。しかし、価格改定と物価高により売上と原価は増加する見込み。	製造業 生コンクリート製造業
	引合いはあるものの、受注につながる割合が落ちている。また、今後は、利益率が低下すると懸念している。	建設業 (木造建築工事業を除く)
	需要の停滞と冬物の売上の落ち込みが1～3月の資金繰りを圧迫した。4～6月の売上見込みは目途がついている。新規のお客様への提案で昨年以上の売上を達成することが目標となっている。	卸売業 婦人・子供服卸売業
	ガソリンスタンド業において、人材の定着と育成が難しいと感じている。一枚岩になりきれていない状況で、各種原価や経費の高騰に先行き不安を感じる。	小売業 ガソリンスタンド
	シーズ的に売上が多くなる。キッチンカー2台で別々のイベント出店が可能となり、好転する見込み。	サービス業 ハンバーガー店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)